

平成 20年 1月 27日(日) 岐阜新聞 (朝)

温暖化防止で 活動事例発表

可児市でシンポ

「ストップ地球温暖化！やってみま笑(しょう)エコライフ」をテーマに、県地球温暖化防止活動センター主催の地球温暖化防止シンポジウムが二十六日、可児市下恵土の市文化創造センターで開かれ、市民ら約三百人が参加した。

シンポジウムの第一部では地元の山田豊市長のあいさつの後、バイオマス発電やレジ袋削減運動など地域一体で温暖化対策に取り組む、二酸化炭

素排出量の削減に成果を上げたコンテストの入賞五団体を表彰した。

このうち最優秀賞に輝き、来月、都内で開かれる全国大会に県代表として参加する「東濃ひのぎ製品流通協同組合」の渡辺信吾参事が、加茂郡白川町の木質バイオマス発電施設「森の発電所」の概要や環境負荷ゼロのパイオ燃料機器の普及啓蒙(けいもう)など地域に密着したエネルギー循環型社会の構築への活動内容を発表した。

続いて地域・学校・事業所の事例発表として可児市旭小学校、KYB岐阜北工場などが日ごろの取り組みを紹介。基調講演では三重大学学長補佐で人文学部文化学科教授



表彰を受ける団体の代表者＝可児市下恵土、市文化創造センター

の朴恵淑さんが「地球温暖化問題と私たちの役割 市民・事業者・行政で取り組むレジ袋有料化運動」と題し伊勢市でのレジ袋有料化への過程や成果などを話した。

また話題の映画「不都合な真実」上映などもあり、市民らは温暖化防止対策への理解を深めた。

岐阜新聞 提供